教育研究業績書

2023年10月23日

所属： 看護学科　　資格： 講師　　氏名： 天野　功士

研究分野	研究内容のキーワード
臨床看護学・基礎看護学	がん看護，周手術期看護，リハビリテーション看護
学位	最終学歴
博士（看護学）	大阪医科薬科大学看護学研究科博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.成人リハビリテーション期看護援助論　授業・演習担当，授業・演習補助	2022年度，2021年度，2020年度，2019年度，2018年度，2017年度	成人リハビリテーション期看護援助論（1単位30時間）において，授業・演習を担当した。演習は呼吸訓練（排痰訓練，機器を用いた呼吸訓練）の演習補助，筋力増強訓練の演習を担当し，デモンストレーションと演習展開を行った。周手術期患者の看護過程において，課題事例の作成，個人ワーク指導（20～31名）を行った。 2018～2022年度は，運動機能障害を有する患者のリハビリテーションプログラム」の講義1コマ，「筋力増強訓練」の演習を1コマ，看護過程の展開6コマにおける個人ワーク指導を担当した。
2.看護実践総合演習Ⅳ　演習担当・演習補助	2022年度通年，2020年度通年，2019年度通年，2018年度通年	2019～2022年度の看護実践総合演習Ⅳ（1単位30時間6時間）において，シスターアドバイザー体験，抗がん剤の曝露予防の演習，タスクシミュレーションを担当した。抗がん剤の暴露予防の演習では，個人防護具の着衣，輸液の接続（バックプライミング），防護具の脱衣のデモストレーションおよび演習補助を担当した。タスクシミュレーションでは，「時間が切迫した状況下での複数患者を受け持った場合の多重課題」についての演習を行い，グループディスカッションのサポートを行った。 2021～2022年度は，シスターアドバイザー体験演習の主担当として，2，3年担当教員との調整，グループ割り振り，タイムスケジュールの作成，学び・感想用紙の作成，まとめを行った。 2018年度の看護実践総合演習Ⅳ（1単位30時間6時間）において，シスターアドバイザー，抗がん剤の曝露予防の演習，看護OSCEⅣを担当した。看護OSCEでは，「疼痛がある患者への経口鎮痛薬の与薬援助」を担当し，学生11名の評価と振り返りを行った。
3.成人急性期看護学実習　実習指導	2022年9月～2023年2月， 2021年9月～2022年2月， 2020年9月～2021年2月， 2019年9月～2020年2月， 2018年10月～2019年2月， 2017年10月～2018年2月	2017～2022年度において，成人急性期看護学実習の実習指導を担当した（3単位135時間）。 2020～2021年度は，COVID-19感染拡大に伴い，一部学内実習の振替を行った。 学内実習では，術後観察技術演習，周手術期における看護技術演習，看護過程の展開，初回離床演習，診療科に応じた看護技術演習，療養生活指導のロールプレイ演習を行った。 術後観察技術演習では，診療科の代表疾患患者を設定したシミュレーションモデル（SCENARIO，Physiko）を活用し，術後観察技術評価を行った。看護過程の展開では，診療科代表疾患患者の術後経過に合わせてシミュレーションモデルの設定を変更し，全身状態の観察およびアセスメントの演習を行い，声などの患者役を担当した。その際の観察から得られた情報を活用した看護過程の展開・報告等の指導を行った。2021年度の看護過程の展開では，教育用電子カルテ「Medi-EYE」を活用し，シミュレーションモデル（SCENARIO）に模擬患者の状態を同期させながら，虚血性心疾患患者の看護過程の展開を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		診療科に応じた看護技術演習では，12誘導心電図検査，低圧持続吸引器の管理，脊椎固定装具の装着介助，起居動作の介助，ドレーンの取り扱い・管理などの体験型演習を担当した。
4.基礎看護学実習Ⅱ　実習指導	2022年8月22～31日，2021年8月19日～9月2日，2020年8月28日～9月10日，2019年9月2～12日，2018年9月3～14日，2017年9月4～15日，2016年9月5～16日	2016年度は，学生5名の実習指導を担当した（2単位90時間） 2017年度は，学生7名の実習指導を担当した（2単位90時間） 2018年度は，学生6名の実習指導を担当した（2単位90時間） 2019年度は，学生5名の実習指導を担当した（2単位90時間） 2020年度は，COVID-19の感染拡大のため，オンラインおよび学内実習となった。大腿骨頸部骨折の模擬患者の看護過程の展開を行い，学生11名の実習指導を担当した（2単位90時間）。学内演習では，模擬患者の事例に基づくシミュレーション演習（全身状態の観察，環境整備，清拭・寝衣交換），遠隔実習ではMicrosoft Teamsにて看護過程の展開の助言を行った。 2021～2022年度は，オンラインおよび学内実習にて，気管支拡張症の模擬患者の看護過程の展開を行い，学生6名の実習指導を担当した（2単位90時間）。学内演習では，模擬患者の事例に基づくシミュレーション演習（全身状態の観察，環境整備，セルフケア援助），遠隔および対面での看護過程の助言を行った。
5.看護実践総合実習　実習指導	2022年7月5～22日，2021年7月5～15日，2018年7月10～27日，2020年6月29日～7月17日，2019年7月9～26日	2018年度は，学生4名の実習指導を担当した（3単位135時間） 2019年度は，学生4名の実習指導を担当した（3単位135時間） 2020年度は，オンラインおよび学内実習（4日間）となり，学生10名の実習指導を担当した（3単位135時間）。チーム医療，多職種連携に関するディスカッションのサポートを行った。直腸がん術後患者を設定したシミュレーションモデル（SCENARIO，Physiko）を活用し，経時的な看護過程の展開および術後の全身管理の演習指導を行った。また，学生がグループ毎で多重課題事例を作成し，グループ同士で作成した多重課題への対処を行う演習を担当した。 2021年度は，病院実習（2週間）および学内実習（1週間）となり，学生7名の実習指導を担当した（3単位135時間）。学内実習では，チーム医療，多職種連携に関するディスカッションのサポートを行った。 2022年度は，学生4名の実習指導を担当した（3単位135時間）。COVID-19感染拡大前同様に，3週間の病院実習を行った。
6.看護学概論　授業補助	2019年度，2018年度，2017年度，2016年度，2015年度	看護学概論（2単位30時間中22時間）において，授業補助を行った。また，看護の主要概念（人間，健康，環境）のグループワークの補助及びまとめを行った。
7.成人看護学概論　授業補助	2019年度，2018年度，2017年度，2016年度	成人看護学概論（2単位30時間）において，授業補助を行った。成人の今日的課題のグループワークにおいて，3G（15名）を担当した。
8.成人急性期看護援助論　演習補助	2019年度，2018年度，2017年度，2016年度	成人急性期看護援助論（1単位30時間）において，授業補助を行った。 胃がん患者の術後管理技術演習において，事前学習動画および演習課題の作成に関わった。 2016～2018年度は，デモンストレーションの実施（ドレーン管理，術後ベッドの作成，術後合併症の観察と管理；呼吸器，循環器，消化器）と事前学習（動画の視聴等）を踏まえた発問を行った。
9.基礎看護学実習Ⅰ　実習指導	2019年7月31日～8月2日，8	2015年度は，学生6名の実習指導を担当した（1単位45

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
	日，2018年7月30日，8月6日，2017年7月31日～8月7日，2016年8月1～5日，2015年9月14～18日	時間） 2016年度は，学生5名の実習指導を担当した（1単位45時間） 2017年度は，学生10名の実習指導を担当した（1単位45時間） 2018年度は，学生5名の実習指導を担当した（1単位45時間） 2019年度は，学生6名の実習指導を担当した（1単位45時間）
10.看護実践総合演習Ⅱ　演習担当・演習補助	2018年度通年，2017年度通年，2016年度通年	2018年度の看護実践総合演習Ⅱ（1単位30時間2時間）において，看護OSCEⅡを担当した。看護OSCEでは，「下肢骨折患者の移乗能力障害と安楽・安全」のシミュレーションを行い，ファシリテーターとして学生16名を担当した。 2017年度の看護実践総合演習Ⅱ（1単位30時間中2時間）において，シミュレーション学習を担当した。春学期シミュレーション学習において2G（12名）を担当し，模擬患者役を行った。看護OSCEⅡにおいて7クール（7名）を担当し，模擬患者役を行った。 2016年度の看護実践総合演習Ⅱ（1単位30時間中10時間）において，キャリア学習，シミュレーション学習，看護OSCEを担当した。キャリア学習では，ガイダンスおよびキャリア学習の担当者として，資料・講義物品の準備，会場設営，授業アンケートの作成，実施等を行った。春学期シミュレーション学習において，ファシリテーターとして1G（5名）を担当した。秋学期シミュレーション学習では，担当者としてシナリオの作成，企画・運営をするとともに，当日はファシリテーターとして1G（6名）を担当した。また，看護OSCEにおいて学生8名の評価と振り返りを担当した。
11.看護実践総合演習Ⅰ　演習補助	2017年度通年，2016年度通年，2015年度通年	2017年度は，キャリア学習，シミュレーション学習を担当した。キャリア学習では，先輩看護職からのメッセージとして1年生全員に対し自分のこれまでのキャリアを紹介した。春学期シミュレーション学習において，ファシリテーターとして2G（12名）を担当した。 2016年度は，キャリア学習，アカデミックライティングの基礎，シミュレーション学習，看護OSCEを担当した。キャリア学習では，先輩看護職からのメッセージとして，1年生全員に対し自分のこれまでのキャリアを紹介した。また，アカデミックライティングの基礎では学生5名を担当し，レポートの書き方，引用文献の記載方法などを助言した。春学期シミュレーション学習では，ファシリテーターとして1G（6名）を担当した。秋学期シミュレーション学習において，ファシリテーターとして2G（12名）を担当した。看護OSCEでは，学生8名の評価と振り返りを担当した。 2015年度の看護実践総合演習Ⅰ（1単位30時間中8時間）において，キャリア学習，アカデミックライティングの基礎，シミュレーション学習，看護OSCEを担当した。キャリア学習では，先輩看護職からのメッセージとして，1年生全員に対し自分のこれまでのキャリアを紹介した。アカデミックライティングの基礎では，学生7名を担当し，レポートの書き方，引用文献の記載方法などについて助言した。また，春学期シミュレーション学習ではファシリテーターとして1G （7名）を担当した。秋学期シミュレーション学習では，ファシリテーターとして1G （7名）を担当した。看護OSCEでは，学生8名の評価と振り返りを担当した。
12.看護実践総合演習Ⅲ　演習補助	2017年度	2017年度の看護実践総合演習Ⅲ（1単位30時間2時間）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		において，看護OSCEⅢを担当した。看護OSCEでは，「全身麻酔で腹部手術を受けた患者の深部静脈血栓症のアセスメントと看護援助」を担当し，学生7名の評価と振り返りを行った。
13.生活援助技術　演習補助	2016年度，2015年度	2015年度の生活援助技術（2単位60時間中4時間）において，体位と体位変換の演習補助を行った。2ベッド（6名）を担当し，体位と体位変換の演習補助を行った。 2016年度の生活援助技術（2単位60時間中12時間）において，移動介助，ストレッチャーへの移乗介助，洗髪・整容の介助の演習補助を行った。臥床患者のシーツ交換の実技試験において評価を行った。
14.家庭看護学　演習補助	2016年度	家庭看護学(2単位30時間中2時間）において，家庭で起こりうる事故への対処法に関する演習(心配蘇生法）の補助としてデモンストレーションを実施した。
15.ヘルスアセスメント　演習補助	2015年度	ヘルスアセスメント（1単位30時間中16時間）において，ベッドメーキング，血圧測定，バイタルサインの観察と身体計測，血圧測定実技試験を担当した。演習補助として2ベッド（6名）を担当し，実習室の使い方や演習時の身だしなみ，ベッドメーキング（環境整備）について説明した。また，バイタルサインと身体計測の実技指導，血圧測定の実技チェック，血圧測定実技試験の評価を行った。
2 作成した教科書、教材		
1.健康心理学事典の執筆	2019年10月	「健康心理学事典（丸善出版）」，第9章ヘルスケアシステム，「医療における専門職」（pp.408-409），「チーム医療」（pp.410-411）を執筆した。
2.術後管理技術教材の作成	2018年8月	同志社女子大学看護学部の「成人急性期看護援助論」において，術後管理のイメージを持ってもらうための映像教材の作成に関わった。映像教材では，全身麻酔で腹部の手術を受けた患者を想定し，手術室から病棟に帰室した際の一連の術直後の観察場面を映像教材にした。また，観察手技毎にチャプタを分割し，根拠とポイントを踏まえた解説動画の作成に関わった。
3.周手術期（急性期）にある患者の看護過程の展開事例の作成	2022年5月，2021年5月，2020年5月，2019年5月，2018年5月，2017年5月	同志社女子大学看護学部で担当している「成人リハビリテーション期看護援助論」の事例を用いた看護過程の展開において，2017年度は腰部脊柱管狭窄症，2018年度は直腸がん，2019年度は変形性膝関節症，2020年度は変形性股関節症について，情報の整理，アセスメント，看護計画立案の一連の周手術期の看護過程の流れを学べるように，手術を受ける患者の事例作成に関わった。2021年，2022年は既存の事例の更新および情報の追加を行った。さらに，2022年度は，教育用電子カルテ「Medi-EYE」を活用し，作成した事例を電子カルテ版へアップデートを行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.保健師免許	2011年4月	登録番号第184771号
2.看護師免許	2011年4月	登録番号第1573155号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.香川大学医学部附属病院看護部（脳神経外科・泌尿器科病棟）勤務	2011年4月2015年	2014年4月より新人教育指導担当のプリセプターを行った。また，香川大学医学部看護学科の学生の実習指導

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		にも積極的に関わった
4 その他		
1.看護研究学会近畿北陸地方会リレーブログ	2019年11月	看護研究学会近畿北陸地方会のリレーブログ11月号で，視線計測に関する研究の紹介（視線計測で看護師の認知プロセスを推定する）を執筆した。
2.看護学会運営委員会	2018年4月～2023年3月	看護学会運営委員の一員として，2018年度は，年1回の看護学会総会の開催（6/15），リサーチセミナーの開催，教員FD研修会の開催（6/11），研究ポスターの掲示，卒業記念講演の準備（2/18）に関わった。 2019年度は，年1回の看護学会総会の開催（9/27），教員FD研修会の開催（3/26），研究ポスターの掲示に関わった。 2020年度は，看護学会総会の開催（9/25），看護学部紹介DVDの更新・編集，教員FD研修会の開催に関わった。 2021年度は，年1回の看護学会総会の開催（7/29），講演会の開催（9/24，10/13），リサーチセミナーの開催（3/23）に関わった。 2022年度は，年1回の看護学会総会の開催（7/29），オープンキャンパスで使用するパワーポイントスライドの修正業務，リサーチセミナーの開催（3/22）に関わった。
3.大学ホームページ教員コラム	2017年7月	教員コラム（夏場の脱水が脳卒中を引き起こす）を執筆した。
4.学部内研究報告会（リサーチセミナー）	2016年3月	自分が取り組んでいる研究テーマ（外来化学療法を継続している初発神経膠腫患者の生活の調整過程）について，看護学部教員に対して紹介した。
5.学部内OSCE勉強会	2015年10月	「看護実践能力を育てる！OSCE」勉強会において，A大学での実践例として，10分程度学生の立場からOSCEでの学びを紹介した。
6.大学ホームページ教員コラム	2015年9月	教員コラム（BLSで救える命）を執筆した。
7.入試監督	2023年1月，2022年1月，2021年1月，2019年1月，2019年1月，2017年1月，2016年1月	2016～2019年は，センター試験の試験監督を行った。 2021～2023年は，大学入学共通テストの試験監督を行った。
8.入試監督	2023年1月，2018年1月，2017年1月，2016年1月	一般入試（前期日程）の試験監督を行った
9.オープンキャンパス	2022年8月，2019年8月，2017年5月，2016年8月，2015年8月	2022年は，体験型講座「看護シミュレーター人形で心臓と呼吸の音を聴こう！」を計2回，担当した。 2019年は，体験型講座「自分の体の音を聴こう－心臓と呼吸と腸の音」，「自分の体を測ってみよう－視線と血圧」を担当した。 2015～2017年は，体験型講座「からだの正常と異常なサインを観察してみよう」を担当した。
10.学部内研究報告会（ポスター掲示）	2019年12月，2017年12月	自分が取り組んでいる研究テーマの紹介を目的として，2017年12月～2018年2月は「外来化学療法を継続している初発神経膠腫患者の生活の調整過程」，2019年12月～2020年2月は「視線計測機器を用いた周手術期熟練看護師の術後ケアの視線における視線解析」のポスターをキャンパス内に掲示した。
11.高大連携	2017年9月，2016年12月，2016年9月	近江兄弟社高等学校，奈良県立奈良北高等学校との高大連携において，体験型講義「からだの正常と異常なサインを観察してみよう」を担当し演習補助を行った。
12.SP支援委員会	2016年4月～2017年3月	SP支援委員の一員として，看護OSCEに関わっていただくSPの募集，教育に関わった（説明会10/5，講習会6回1/16，17，19，23，25，30，意見交換会3/8）。
13.PSC（プラクティカルサポートセンター）WK	2015年4月～2016年3月	学生がシミュレーターを使用して自己学習する場であるプラクティカルサポートセンターの立ち上げから運営に関わった。また，自己学習課題の作成を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
14.SP支援WK	2015年4月～2016年3月	SP支援WKの一員として，開設初年度からのワーキンググループの運営，看護OSCEに関わっていただくSPの募集，教育に関わった（説明会10/8，講習会2回12/21，22；1/12,13，意見交換会3/3）。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.前立腺全摘除術後がん患者の下部尿路症状に対する自己管理尺度の開発 （博士論文）	単	2023年	大阪医科薬科大学看護学研究科博士論文	
2.経口抗がん剤を継続している初発神経膠腫患者の生活の調整過程 （修士論文）	単	2017年3月	大阪医科大学看護学研究科修士論文	
3 学術論文				
1.Development of a Self-management Scale for Lower Urinary Tract Symptoms in Patients with Cancer after Radical Prostatectomy （査読付）	単	2023年1月	International Journal of Urological Nursing, in press	前立腺全摘除術後がん患者のLUTSに対する自己管理尺度（Self-Management Scale for LUTS in Patients with Cancer following Radical Prostatectomy: SMS-LUTS-RP）を開発し，信頼性と妥当性を検証した。SMS-LUTS-RPは，望ましい心理測定特性を有しており，RP後がん患者のLUTSに対する自己管理を患者の認知や行動などの多側面から評価できる。本尺度は，生活状況に合わせた個別的な自己管理支援につなげることができる。
2.Self-management of lower urinary tract symptoms in post-prostatectomy cancer patients: Content analysis （査読付）	共	2022年6月	International Journal of Urological Nursing, 16（3），234-244	前立腺全摘除術後がん患者の下部尿路症状（LUTS）に対する自己管理を明らかにすることを目的に，面接調査を行った。その結果，カテゴリとして，解決すべき問題の自覚，下部尿路症状の対処方略の吟味，下部尿路症状の悪化をきたす行動の回避，下部尿路症状によるトラブルへの対処，排尿コントロール状況の自己評価，下部尿路症状の肯定的な受けとめ，対処方略への手応えなどが抽出された。医療者は，患者が行っているLUTSの対処方略とその効果について，患者と共にフィードバックしつつ，患者の対処方略をエンパワーするよう支援していく必要があると示唆された。 本人担当部分：計画立案，データ収集，分析，まとめ 共著者：天野功士，鈴木久美
3.周手術期熟練看護師の術後観察時の視線と手技 （査読付）	共	2021年11月	日本看護研究学会雑誌，44（5），721-734	視線計測機器を用いて熟練看護師が術後観察を行う際の視線と手技を明らかにすることを目的に，周手術期看護の経験が5年以上の看護師13名を対象に，視線と手技の分析を行った。主観的な術後観察と注視潜時の順番は対応する傾向にあり，術後観察手技内容と手技に関連する注視項目の一致率，同時進行手技の実施率が明らかとなった。 本人担当部分：データ収集，分析，まとめ 共著者：天野功士，當目雅代，小笠美春，田中邦彦
4.整形外科病棟入院患者の転倒・転落のリスク要因に関する文献検討 （査読付）	共	2021年4月	同志社看護，第6巻，15-25	看護学生の転倒・転落に対する危険予知トレーニング教材を開発する前段階として，整形外科患者の転倒・転落のリスク要因の特徴を明らかにすることを目的に，文献検討を行った。転倒・転落につながった患者の行動では「排泄」や「移動・移乗」が多く，内的要因としては「筋力低下・体力低下」「歩行障害」「疼痛」等，外的要因としては「ベッド周囲のスペース」「履物の配置」「ナースコールの位置」等が抽出された。 本人担当部分：文献検索，分析 共著者：小笠美春，當目雅代，天野功士，森島千都子
5.健常男性の脊椎固定	共	2021年4月	同志社看護，第6	健常男性が脊椎固定装具を装着した際の排泄動作時の視線計測を行

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
装具装着による排泄動作の視線計測 （査読付）			巻，1-13	い，脊椎固定装具装着時の認知パターンの一部を推定した。腰椎固定装具装着時は下衣の上げ下げ動作に時間を要していた。頸胸椎固定装具装着時は「便器」「ズボン」を注視できていなかった。患者が安全に排泄動作を行うことができるよう，術前に脊椎固定装具装着を体験する機会を持ち，術後の危険予測や対処行動につながる支援を行う必要性が示唆された。 本人担当部分：データ収集，分析，まとめ 共著者：小笠美春，當目雅代，光木幸子，天野功士
6.Changes in quality of life and lower urinary tract symptoms over time in cancer patients after a total prostatectomy: systematic review and meta-analysis （査読付）	共	2021年	Supportive care in cancer，30 (4)，2959-2970	前立腺全摘除術後がん患者の下部尿路症状（LUTS）およびQOLの経時的変化とそれらの関連を明らかにすることを目的にシステマティックレビューおよびメタアナリシスを行った。その結果，術前と比較して，術後6か月以降はLUTSの重症度が有意に低下しており，症状の改善を認めていた。QOLは術後12か月で有意に低下し，QOLの改善を認めていたが，研究間で異質性が確認された。術後のLUTSは，年齢，前立腺体積，術前のIPSSなどが関連しており，QOLは尿失禁の悪化，下部尿路閉塞症状の悪化などが関連していた。 本人担当部分：計画立案，文献検索，分析，まとめ 共著者：天野功士，鈴木久美
7.健常男性の脊椎固定装具装着による歩行器歩行時の視線計測 （査読付）	共	2020年	同志社看護，第5巻，13-26	歩行器歩行時の視線計測を行い，脊椎固定装具装着者が廊下を歩行する際の認知パターンの一部を推定した。腰椎固定装具では，腰椎および頸椎の回旋の可動域が制限されたことにより，歩行動作に支障をきたしており，経路が確認しづらくなり総注視時間が長くなった。また，腰椎および頸椎の前屈が制限され，手元床の注視が困難となったため，正面壁の注視時間が長くなったと考えられた。 本人担当部分：データ収集，分析，まとめ 共著者：天野功士，當目雅代，光木幸子，小笠美春
8.The process of life adjustment in patients at onset of glioma who are receiving continuous oral anticancer drug: A qualitative descriptive study （査読付）	共	2018年12月	International Journal of Nursing Sciences，6 （2），134-140	経口抗がん剤を継続している初発神経膠腫患者の生活調整過程を明らかにすることを目的に対象者10名に面接調査を行い，M-GTAの手法を用いて分析した。その結果，患者は【自分の力量に合わせた方法の試行錯誤】をしていた。試行錯誤において，自分の思うようにならないと【思っていた以上に不自由な生活に自信を失う】が，【変えられない現実を仕方がないと諦観する】ことで気持ちの安定化を図っていた。一方では，【機能の向上により回復意欲が高まる】と，更なる機能回復に向けた試行錯誤を重ね，【限られた命の中で自分の思うような生き方をする】ことで，生活調整をしていることが明らかとなった。看護援助としては，患者の力量に見合った方法を見出すことができるように援助することが重要であることが示された。 本人担当部分：計画立案，データ収集，分析，まとめ 共著者：天野功士，鈴木久美
9.動作を伴う視線計測に関する文献的考察 （査読付）	共	2018年3月	同志社看護，第3巻，21-28	動作を伴う視線計測に関する先行研究から，視線の測定方法，分析方法，対象者数の妥当性を明らかにした。 本人担当部分：計画立案，文献検索，分析，まとめ 共著者：天野功士，當目雅代
10.看護学生が臨床場面を観察する時のアセスメント力を視覚情報から可視化する試み （査読付）	共	2018年3月	同志社看護，第3巻，11-20	看護学生の患者観察の認知プロセスを視覚情報から計測される軌跡を可視化し，アンケート調査による観察内容と思考過程の記述内容からアセスメント力を明らかにできるかを検討した。焦点化された画像を観察する視線を可視化し，アンケート調査による観察内容と思考過程の記述内容を関連させて分析することによりアセスメント力を捉えることが可能であると考えられた。 本人担当部分：計画立案，データ収集，分析 共著者：光木幸子，當目雅代，天野功士，小笠美春，田村沙織，野々口陽子，葉山有香
11.3STEPで学ぶ！疾患Basic Study Vol.3 胃がん STEP1 胃ってどんな臓器? （査読なし）	共	2017年6月	クリニカルスタディ，Vol.38，No.7，20-23，出版社：メヂカルフレンド社	実習・国家試験でよく出会う疾患である「胃がん」についての解説の一部として，胃の消化・吸収機能，胃周囲の血管・リンパ節，胃の解剖の執筆を担当した。 共著者：小笠美春，野々口陽子，天野功士

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
12.がん患者が生活の再構築過程において直面する課題と取り組みに関する文献検討（査読付）	共	2017年	大阪医科大学看護研究雑誌，第7巻，72-81	生活の再構築過程において，がん患者が直面する課題と取り組みに関する文献レビューを行った。がん患者が直面する課題として〔がんの現実から逃れられない辛さ〕〔身体機能の変化に伴うアイデンティティのゆらぎ〕などがあり，〔がんに伴うネガティブな感情を調節する〕〔回復への希望を持つ〕などの取り組みにより生活の再構築に至っていた。 本人担当部分：計画立案，分析，まとめ 共著者：天野功士，鈴木久美
13.看護学部における地域住民参画型教育の取り組みと今後の課題　模擬患者の養成と看護OSCEへの参画支援を通して （査読付）	共	2017年	同志社看護，第2巻，37-44	A大学看護学部における地域住民SP養成とOSCEへの参画支援に関する開設初年度の活動を振り返り，SP養成の方法と今後の課題を報告した。 本人担当部分：実施 共著者：杉原百合子，三橋美和，小笠美春，川村晃右，天野功士，野々口陽子，田村沙織，續田尚美，看護学部教員
14.看護系学士課程大学生のBLS(Basic Life Support)講習受講後1年および2年後の知識習得状況の比較(第Ⅱ報）（査読付）	共	2012年3月	日本看護学会論文集: 成人看護I, Vol. 42, 230-233	BLSを受講した看護系大学3年生30名および4年生30名の計60名を対象に，知識に対するアンケート調査を行った。その結果，「覚えていた」と回答したものの実際の手技では未実施が多かった項目として，『呼吸・脈拍の確認』の「呼吸・脈拍の確認中，頭部後屈を維持」，『AEDの操作』の「電極パッドの装着」「コネクターの挿入」などであった。 本人担当部分：評価項目の検討，データ収集 共著者：野口英子，土居慶彦，小笠美春，當目雅代，天野功士，古地敬利
15.看護系学士課程大学生のBLS(Basic Life Support)講習受講後1年および2年後の技術習得状況の比較(第I報）（査読付）	共	2012年	日本看護学会論文集: 成人看護I, Vol. 42, 234-237	BLSを受講した看護系大学3年生30名および4年生30名の計60名を対象に，中年男性が倒れているという状況設定でBLSを行い，38の技術項目を評価した。その結果，BLS技術　38項目の評価合計点では3年生と4年生では有意差はなく，BLS講習受講後1年および2年の時間経過による技術習得状況の差はなかった。 本人担当部分：評価項目の作成，データ収集，データ分析 共著者：小笠美春，天野功士，土居慶彦，野口英子，當目雅代，古地敬利
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.前立腺全摘除術後がん患者の下部尿路症状に対する自己管理の実態	共	2023年2月	日本がん看護学会学術集会第37回（横浜市）	前立腺全摘除術後患者のLUTSに対する自己管理の実態を明らかにすることを目的とした。LUTSの自己管理において『あてはまる』と回答した患者の割合が高かった項目は、「LUTSと上手く付き合っていこうと思っている」「陰部周囲を清潔にしている」「対策をとることで仕事や趣味、外出ができると思っている」「手術後にLUTSが起こることは仕方がないと思っている」であった（86.1～92.1%）。 本人担当部分：データ収集，分析，まとめ 共同発表者：天野功士，鈴木久美
2.Postoperative urinary dysfunctions in patients with prostate cancer and the associated changes in quality of life: A review of the literature	共	2020年	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)	前立腺がん術後患者の排尿障害とQOLの推移とそれらの関連を明らかにすることを目的に文献レビューを行った。術後3か月と12か月では，尿失禁が全くない患者はそれぞれ17%と29%であった。他の排尿障害は頻尿や夜間頻尿，尿意切迫が多く，それらは術後1～3か月で最も悪化しその後は徐々に改善を認めるものの，12か月後も機能低下が続いていた。医療者は患者が排尿障害の改善を自覚できるよう支援することが重要であると示唆された。 本人担当部分：計画立案，分析，まとめ 共同発表者：天野功士，鈴木久美，府川晃子
3.成人看護学実習前後における 3 年次看護学生の模擬患者画像観察後の記述内容の	共	2019年8月	日本看護教育学会第28回学術集会（京都市）	看護学生が模擬患者を観察した後の記述内容から実習前後のアセスメント力の変化を明らかにした。アンケート調査を行いKH Coderを用いて頻出語の抽出，共起ネットワーク分析を行った。実習前は，「確認」105回，「ルート」93回，「ベッド」84回であり，実習後は

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
変化				「ルート」90回，「確認」80回，「点滴」71回であった。実習後は「患者」「状態」といった語を含めた患者を中心としたアセスメントへと変化した可能性が示唆された。 本人担当部分：計画立案，データ収集，まとめ 共同発表者：光木幸子，天野功士，田村沙織，小笠美春，葉山有香，當目雅代
4.視線計測を用いた周手術期熟練看護師の術後ケアの観察における認知プロセスの可視化	共	2019年8月	日本看護研究学会第45回学術集会（大阪市）	熟練看護師の術後観察を視線計測を用いて可視化し，認知プロセスを推定した。看護師12名の分析の結果，注視項目変化表は，序盤で顔・血圧・パルスオキシメーター，中盤で胸部・腹部・腹腔ドレーン，終盤で点滴・PCA・フットポンプに共通性がみられた。質問紙による観察の優先順位は，意識レベル，循環動態，呼吸状態などの順であった。熟練看護師は，作業をしながら視線は行っている作業とは別の観察をしていることが推測された。 本人担当部分：データ収集，分析，まとめ 共同発表者：當目雅代，天野功士，小笠美春，光木幸子，田村沙織，田中邦彦
5.視線計測機器を用いた周手術期熟練看護師の術後ケアの観察における視線解析	共	2019年	日本看護研究学会第45回学術集会（大阪市）	熟練看護師の術後観察の視線の実態を明らかにした。看護師12名に視線計測を行った結果，熟練看護師は，患者の意識レベルを優先的に確認し，随時患者の状態の変化を観察していたと考えられ，患者の状態の変化を予測しながら優先度を考え観察を行うよう指導していく必要性が示唆された。 本人担当部分：データ収集，分析，まとめ 共同発表者：天野功士，當目雅代，小笠美春，光木幸子，田村沙織，田中邦彦
6.3年次看護学生の成人看護学実習前・実習後における患者観察時の注視時間の変化	共	2018年12月	日本看護科学学会第38回学術集会（松山市）	看護学生の成人看護学実習6週間の実習前と実習後において，学生の観察の視点を可視化し，臨地実習を通しての観察視点の変化を明らかにした。実習前後で平均注視時間が有意な差を認めた領域は「酸素流量計」「三方活栓」であり，実習を通して酸素吸入療法，輸液療法を受けている患者を細かく丁寧に観察する力が身についたと考えられた。 本人担当部分：計画立案，データ収集，分析，まとめ 共同発表者：天野功士，光木幸子，小笠美春，葉山有香，田村沙織，當目雅代
7.看護学生における模擬患者への観察時の認知プロセスを視覚情報から可視化する試み	共	2017年9月	日本看護学教育学会第27回学術集会 （宜野湾市）	看護学生の患者観察の認知プロセスを視線軌跡として可視化し，観察・アセスメント力の一部を明らかにした。協力者は領域実習前の看護学生3年生5名であった。その結果，点滴と酸素吸入・吸引についてはその他よりも注視時間が多かった。実施後のアンケートにおいても適切に実施されるように点滴や酸素の管理が必要であることが記載されていた。 本人担当部分：計画立案，データ収集，分析 共同発表者：光木幸子，當目雅代，天野功士，田村沙織，野々口陽子，小笠美春，葉山有香
8.がん患者が生活の再構築過程において直面する課題と取り組みに関する文献検討	共	2017年2月	第31回日本がん看護学会学術集会（高知市）	生活の再構築過程において，がん患者が直面する課題と取り組みについて文献レビューを通して明らかにた。がん患者が生活の再構築において直面する課題として〔がんの現実から逃れられない辛さ〕〔身体機能の変化に伴うアイデンティティのゆらぎ〕などがあり，〔がんに伴うネガティブな感情を調節する〕〔回復への希望を持つ〕などの取り組みにより生活の再構築に至っていた。 本人担当部分：計画立案，分析，まとめ 共同発表者：天野功士，鈴木久美
9.The process of life adjustment in patients at onset of glioma who are receiving continuous oral chemotherapy	共	2017年	3rd Asian Oncology Nursing Society (AONS) Conference Invitation (Beijing)	経口抗がん剤を継続している初発神経膠腫患者の生活調整過程を明らかにすることを目的に対象者10名に半構造化面接を行い，M-GTAの手法を用いて分析した結果，患者は【自分の力量に合わせた方法の試行錯誤】をしていた。看護援助としては，患者の力量に見合った方法を見出すことができるように援助することが重要であることが示された。 本人担当部分：計画立案，データ収集，分析，まとめ 共同発表者：天野功士，鈴木久美
10.健常男性の脊椎固定	共	2016年11月	日本健康心理学会	健常男性を対象に脊椎固定装具を装着した場合，障害物や曲がり角

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
装具装着による廊下歩行動作の視線計測の比較			第29回大会（岡山市）	のある廊下歩行時の認知プロセスの可視化を目的に視線計測を実施した。その結果，行程毎の注視時間の中央値は，行程①コルセット7.39s，カラー7.07s，非装着 6.21s，行程②コルセット6.96s，カラー4.30s，非装着4.59s，行程③コルセット6.82s，カラー6.57s，非装着5.47sであった。 本人担当部分：データ収集 共同発表者：當目雅代，小笠美春，光木幸子，葉山有香，野々口陽子，天野功士，田村沙織
11.健常男性の脊椎固定装具装着による靴・靴下の脱覆動作の視線計測の比較	共	2016年11月	日本健康心理学会第29回大会（岡山市）	健常男性を対象に脊椎固定装具を装着した場合，靴と靴下の脱覆動作時の認知プロセスの可視化を目的に視線計測を実施した。注視時間の中央値は，行程①コルセット4.72s，カラー5.56s，非装着4.14s，行程②コルセット19.27s，カラー15.07s，非装着11.03s，行程③コルセット37.44s，カラー29.01s，非装着25.38sであった。 本人担当部分：データ収集 共同発表者：小笠美春，當目雅代，光木幸子，葉山有香，野々口陽子，天野功士，田村沙織
12.視線計測から導き出す熟練者の観察能力に関する文献レビュー	共	2016年8月	第47回日本看護学会看護教育学術集会（大津市）	看護学生の観察能力習得に向けた示唆を得るために，観察能力の可視化に有効な視線計測を用いた研究について文献レビューを行った。その結果，熟練者の観察能力として，要点をおさえて観察する力，想定しながら観察する力，系統立てて観察する力の3つの能力が明らかとなった。 本人担当部分：データ収集，データ分析 共同発表者：葉山有香，田村沙織，天野功士，野々口陽子，小笠美春，光木幸子
13.健常男性の脊椎固定装具装着によるトイレ動作の視線計測の比較	共	2016年	日本健康心理学会第29回大会（岡山市）	健常男性を対象に脊椎固定装具を装着した場合，トイレ動作時の認知プロセス可視化を目的に男性10名の視線計測を実施した。その結果，行程毎の注視時間の中央値は，行程①コルセット6.47s，カラー5.37s，非装着5.62s，行程②コルセット10.33s，カラー6.82s，非装着8.23s，行程③コルセット11.13s，カラー7.04s，非装着7.98sであった。 本人担当部分：データ収集 共同発表者：光木幸子，當目雅代，小笠美春，野々口陽子，天野功士，田村沙織
14.胃切除術を受ける患者の入院前から入院後における心配事の推移	共	2015年12月	第35回日本看護科学学会学術集会（広島市）	20歳以上の胃切除患者25名を対象とし，入院前と入院当日に自記式質問紙調査を実施。術前の心配事は研究者らが開発したESWATを用いた。ESWATは入院前と入院当日で有意差は認められなかったが，入院前に比べ入院当日は得点が高くなっており，胃切除患者は心配事を解決できないまま自宅で過ごし，心配事が上昇した状態で入院を迎えていた。 本人担当部分：データ分析，まとめ 共同発表者：小笠美春，天野功士，野々口陽子，當目雅代
15.看護大学生のBLS講習受講1年および2年後の技術習得状況　第Ⅰ報	共	2011年9月	第42回日本看護学会学術集会－成人看護Ⅰ・Ⅱ（大阪市）	BLS受講後1年および2年を経過した学生各30名を対象に，中年男性が倒れているというシチュエーションを設定し，BLS技術38項目を評価した。その結果，BLS講習受講後1年および2年の時間経過による技術習得状況の差はなかった。 本人担当部分：評価項目の検討，データ収集 共同発表者：土居慶彦，天野功士，古地敬利，野口英子，小笠美春，當目雅代
16.看護大学生のBLS講習受講1年および2年後の知識習得状況　第Ⅱ報	共	2011年9月	第42回日本看護学会学術集会－成人看護Ⅰ・Ⅱ（大阪市）	BLS受講後1年および2年を経過した学生各30名を対象に，中年男性が倒れているというシチュエーションでBLSを実施し，BLS技術および38項目の知識習得状況をアンケート調査により評価した。その結果，【覚えていたが未実施】の多かった項目は，「呼吸・脈拍の確認中，頭部後屈を維持」「上半身の体重を乗せて胸骨圧迫」AEDの「電極パットの装着」「コネクターの挿入」の順番であった。 本人担当部分：評価項目の作成，データ収集，データ分析，まとめ 共同発表者：天野功士，土居慶彦，古地敬利，小笠美春，野口英子，當目雅代
３．総説				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.熟練看護師の術後臨床判断の可視化に基づくシチュエーション・トレーニング教材の開発	共	2020年度～	文部科学省学術研究助成基金助成金	基盤研究C（代表：當目雅代，分担：天野功士）（課題番号20K10677）429万円
2.前立腺がん術後患者の自己管理スキルを高める支援プログラムの開発と有用性の検討	単	2019年度～	文部科学省学術研究助成基金助成金	若手研究（代表：天野功士）（課題番号19K19585）403万円
3.視線計測にゲーミフィケーションを取り入れた転倒転落危険予知トレーニング教材の開発	共	2019年度～	文部科学省学術研究助成基金助成金	基盤研究C（代表：小笠美春，分担：天野功士）（課題番号19K10918）416万円
4.視線計測を客観的評価フィードバックに用いた学生版術後観察トレーニング教材の開発	共	2016年度～2019年度	文部科学省学術研究助成基金助成金	基盤研究C（代表：當目雅代，分担：天野功士）（課題番号16K11943）370万円
5.神経膠腫患者の生活プロセスから導く支援プログラムの開発	単	2016年度～2018年度	文部科学省学術研究助成基金助成金	若手研究B（代表：天野功士）（課題番号16K20780）182万円

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2019年8月	第45回日本看護研究学会学術集会において，実行委員として当日受付業務を担当した。
2.2015年7月	第9回日本慢性看護学会学術集会において，協力員として学会運営の補助を行った。